

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立日新小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

### ■ 調査期日

令和5年4月18日（火）

### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

### ■ 調査の内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

- |  |
|--|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。<br>②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。<br>調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。 |
|--|

#### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

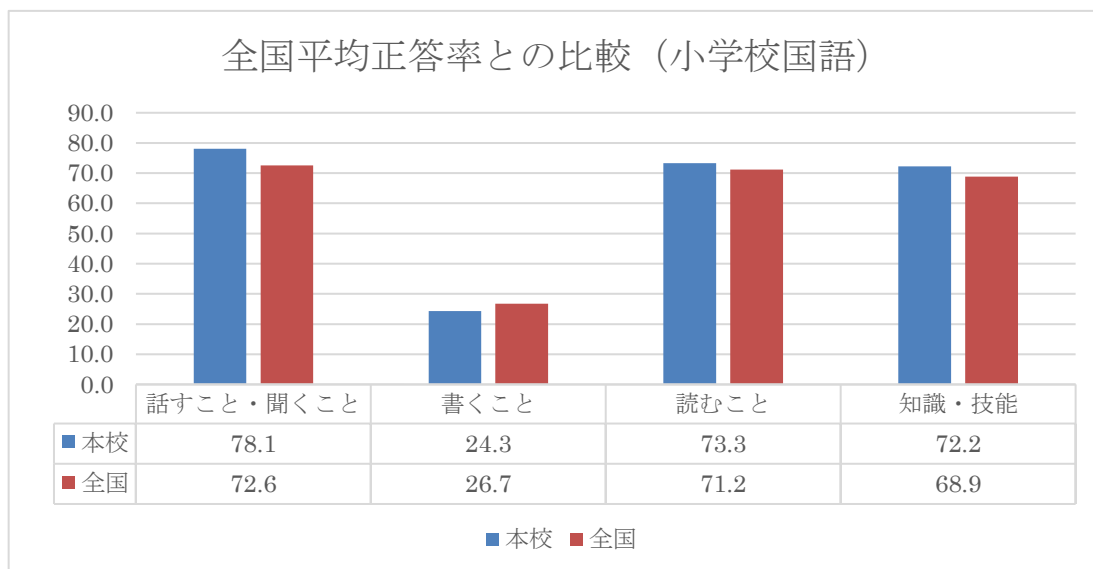
| 児童に対する調査  | 学校に対する調査  |
|---|---|
| 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査<br>(例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など | 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査<br>(例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など |

### ■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語（中学校）に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語



#### (1) 結果

全体では、全国平均正答率を2.8ポイント上回っています。「書くこと」は全国平均を下回っていますが、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「知識・技能」は、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率は、全問題で全国平均よりも低く、最後まで粘り強く取り組む姿勢がうかがえます。

#### (2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」が全国平均正答率を3.3ポイント上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。「話すこと・聞くこと」においては、5.5ポイント上回っており、授業の中での話し合い活動が成果を上げていると考えます。記述式の問題の正答率は、全国平均51.1%に対し、本校は56.2%と上回っています。

課題は、「書くこと」、特に、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書くことです。また、文の中で漢字を正しく使う設問においても、正答率が全国平均を下回っています。「知識」を用いて、考えを整理、再構成するような、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

#### (3) 学力向上のための取り組み

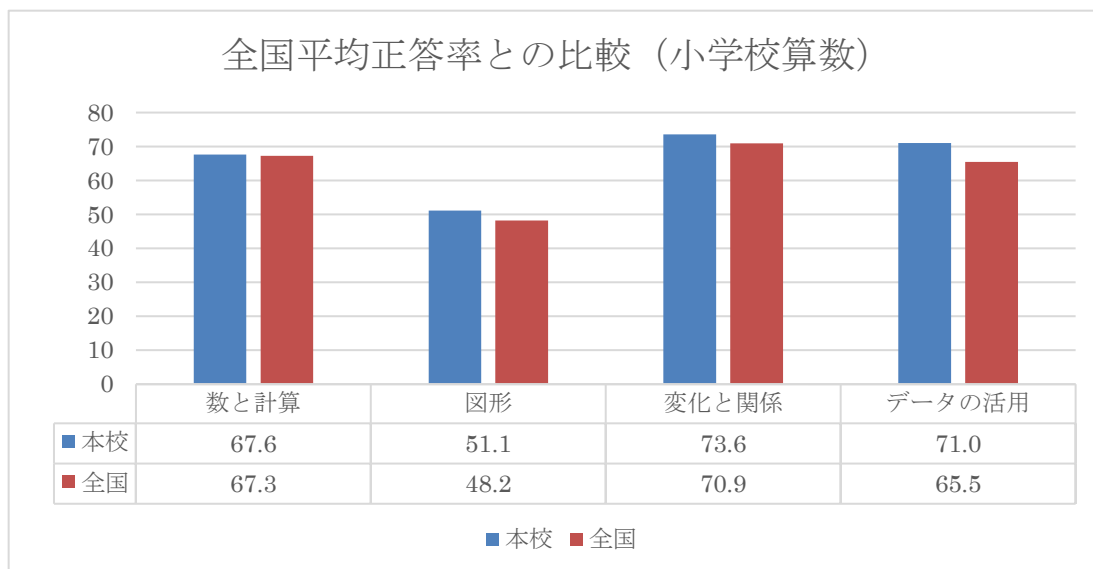
##### 【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を引き続き工夫し（主体的・対話的で深い学び）で、子供同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 漢字を文の中で意識して使用する機会を増やすとともに、同音異義語など言葉の指導を丁寧に行います。また、読書指導とあわせて、語彙力を増やします。
- 目的や意図に応じて、資料等を用いて自分の考えを書きまとめる機会を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます。

##### 【ご家庭では】

- 音読や読書を大切にしていましょ。読み飛ばすことなく、丁寧に音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、考えながら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。また、いろいろな本を読み、豊かな表現や様々な用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。
- お子さんの日々の取組に興味をもち、共感したり、根拠を尋ねたりしながら交流しましょう。

## 2 算 数



### (1) 結 果

全体では、全国平均を2.5ポイント上回っていました。全ての領域で全国平均をやや上回っています。また、無解答率は、すべての問題で全国平均より低く、問題の75%を全員が解答しています。

### (2) 成果と課題

今回の調査では、「選択式」「短答式」「記述式」の正答率についても、全国平均を上回っていました。記述式の問題においても、無解答率が低く、粘り強く問題に取り組むことができました。

しかし、「A 数と計算」領域の、2位数÷1位数の筆算の意味や、示された場面を解釈し、加法や乗法で求めることができる理由を式や言葉を用いて記述し、その結果が条件に当てはまるかどうかを判断する問題の正答率が、全国平均正答率を下回っていました。問題の意図が正確に読み取られていないと思われる誤答も目に付きました。また、図形の意味や性質の理解や、図形を構成する要素を基に面積について考え、言葉や数で記述する問題についても、課題が見られます。

日々の授業で、日常生活の問題場面に照らし合わせて考えること、具体物や操作活動等を通して、数量感覚を実感として捉えること、文章や資料から重要なことを抽出すること等が重要であると考えます。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 問題場面から、問われていることを子供の言葉で整理し、答えを予想してから立式、解答したり、式から数字の意味を想起させたりすることで、式、絵や図、具体的場面を行き来し、関連付けながら考えることができるようにします。
- 授業では、友達と自分の考えを比較・交流する場を多く取り入れ、みんなで理解を深めます。
- ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

#### 【ご家庭では】

- お子さんのノートやプリント等の宿題の様子、テストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数を好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

### 3 生活習慣や学習習慣に関する調査

#### (1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童の割合。

#### 《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

| 調査項目                          | 本校    | 全国平均  |
|-------------------------------|-------|-------|
| 朝食を毎日食べていますか。                 | 84.7% | 83.7% |
| 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。            | 50.0% | 38.1% |
| 毎日同じくらいの時刻に起きていますか。           | 56.9% | 55.1% |
| 自分にはよいところがあると思いますか。           | 34.7% | 42.6% |
| 将来の夢や目標を持っていますか。              | 65.3% | 60.8% |
| 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。          | 75.0% | 75.3% |
| いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。 | 84.7% | 82.6% |

朝食・起床・就寝については全国平均を上回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。引き続き家庭と学校で協力して、規則正しい生活の習慣化をめざしていきましょう。自己肯定感については全国平均よりも低い結果となっています。学校でも子どもたちのよさを見出し、それを認めたり、励ましたりしていきますので、ご家庭でも称賛や励ましをお願いします。

規範意識の項目については、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも高い結果が出ています。

#### 《家庭学習の様子》

| 調査の項目                                      | 本校    | 全国平均  |
|--|-------|-------|
| 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。                      | 30.6% | 28.7% |
| 学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」 | 13.9% | 11.8% |
| 「2時間以上、3時間より少ない」                           | 12.5% | 13.8% |
| 「1時間以上、2時間より少ない」                           | 33.3% | 31.5% |
| 「30分以上、1時間より少ない」                           | 26.4% | 26.9% |

家庭学習については全国平均とほぼ同等ですが、まだ1時間未満の児童が4割近くおり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。かなり個人差が見られるので、「家庭学習のすすめ」をもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

#### (2) 改善に向けての取り組み

##### 【学校では】

- 「生活リズムアップ大作戦」等の取組を行い、家庭と協力して、生活習慣の向上に努めています。
- 学年に応じた宿題を出し、家庭学習の目標時間（10～15×学年）を示し、家庭学習を促しています。学年の実態に応じて、自主学習（自学）についても取り組み、多様な内容を紹介し、定着を目指しています。
- 「自立」に向かって、主体的に考え、行動することができるように、教育活動の多くの場面で意識して指導しています。

##### 【ご家庭では】

- テレビゲームや携帯電話等の使用のルール等、家庭でのルールについてお子さんと話し合って決め、生活習慣の向上に努めるとともに、役割を与えて褒めることで、自己肯定感を高めましょう。
- 家庭学習は学校の授業とつながっています。家庭学習が自分のための学習となるように意識し、計画的に取り組むことが大切です。学習の様子を見守っていただく中で、お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。